# 参考資料

・中越地域の魅力
・会津の魅力
・戊辰戦争
・広域周流ルート
・関連計画

# 地域の魅力（自然資源）

参考資料

❶ 上空から見た信濃川

❺ 寺泊のビーチ（長岡市）

❻ 国営越後丘陵公園（長岡市）

❼ 山古志の棚田（長岡市）

❽ 雪景色（長岡市）

❷ 恋人岬（柏崎市）

❸ SUP体験（柏崎市）

❾ 山古志アルパカ牧場（長岡市）

❿ 東山ふるさと農園いちご狩り（長岡市）

⓫ 栃尾フィッシングパーク（長岡市）

❹ 鵜川地区 蛍の名所（柏崎市）

⓬ 栃尾の雁木（長岡市）

⓯ 奥只見ダム湖と遊覧船（魚沼市）

⓭ 外ノ沢の棚田（小千谷市）

⓮ 山本山高原（小千谷市）

⓰ アユ釣り（魚沼市）

❶：国土交通省HP
❷：にいがた観光ナビ
❸：DAIGO HP
❹：にいがた観光ナビ
❺：にいがた観光ナビ
❻：国営越後丘陵公園HP
❼：農林水産省HP
❽：信濃川火焔街道連携協議会HP
❾：ジョルダンHP 動物園・水族館特集
❿：にいがたびより
⓫：管理釣り場ポータル
⓬：栃尾観光協会HP
⓭：にいがた観光ナビ
⓮：にいがた観光ナビ
⓯：奥只見湖遊覧船HP
⓰：魚沼漁業協同組合HP

# 地域の魅力（祭り・イベント）

参考資料

❶ えんま市（柏崎市）

❷ 柏崎花火大会（柏崎市）

❸ 長岡酒の陣（長岡市）

❹ 長岡花火（長岡市）

❺ 今町・中之島大凧合戦（長岡市）

❻ 牛の角突き（長岡市）

❼ えちごかわぐち雪洞火ぼたる祭（長岡市）

❽ 牛の角突き（小千谷市）

❾ 片貝花火（小千谷市）

❿ 錦鯉品評会（小千谷市ほか）

⓫ おぢや風船一揆（小千谷市）

⓬ 小出国際雪合戦（魚沼市）

❶：柏崎市HP
❷：柏崎市HP
❸：長岡市HP
❹：長岡市総合計画
❺：にいがた観光ナビ
❻：長岡市HP
❼：長岡市HP
❽：小千谷闘牛会HP
❾：片貝町煙火協会公式サイト
❿：長岡技術科学大学宮崎研究室HP
⓫：小千谷市観光サイト
⓬：にいがた観光ナビ

# 地域の魅力（特産品）

参考資料

❶ ジャンボエビフライ（柏崎市）
❷ 鯛茶漬け（柏崎市）
❸ 柏崎の海の幸（柏崎市）
❹ 寺泊の海の幸（長岡市）
❺ ながおかこしひかり「金匠」
❻ 長岡の味噌
❼ 油揚げ（長岡市）
❽ 酒造見学（長岡市）
❾ 長岡の地酒
❿ 醤油（長岡市）
⓫ 長岡生姜醤油ラーメン
⓬ けんさん焼き（柏崎市・小千谷市）
⓭ 魚沼産こしひかり
⓮ へぎそば（小千谷市・魚沼市）
⓯ 山菜（魚沼市）

❶,❷：柏崎観光協会HP
❸：日本海フィッシャーマンズケープHP
❹,❺,❼：長岡市HP
❻：越後長岡味噌醸造たちばな本舗HP
❽：朝日酒造HP
❾：信濃川火焔街道連携協議会HP
❿：越のむらさきHP
⓫：こまちウェブ
⓬：新潟・食品名産図鑑HP
⓭～⓯：魚沼市観光協会HP

# 地域の魅力(産業・学術機関)

参考資料

・自動車のメーターや部品、工作機械、電子部品、半導体等ものづくりの基礎となる要素産業が幅広く展開し、IOT先進地域となりうる可能性を秘める
・長岡、柏崎、小千谷3市連携で産業活性化の基本計画を策定するなど、広域的に産学官の連携が強く、若者が学んだ知識を、学んだ地域で活かせる選択肢が多い
・広大な米どころを活かし、米菓等の製造も国内トップ
・高速道路や直轄国道、鉄道の結節点に存在し、物流拠点として利便性も高い

※学術機関のみ地図上にプロット

❶ 長岡技術科学大学

❷ 長岡大学

❸ 長岡造形大学

❹ 長岡工業高等専門学校

❺ 新潟工科大学

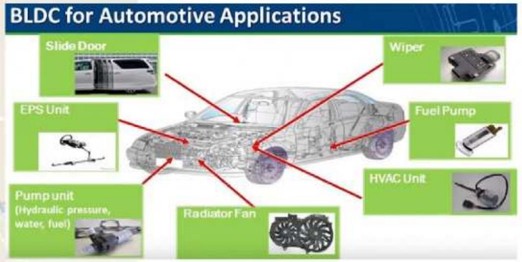
❻ 新潟産業大学

❼ 長岡市と
3大学1高専の連携

❽ 高等教育機関と
地元企業の連携

❾ NaDeC BASE誕生

❿ 自動車用メーター



⓫ 自動車用モーター

⓬ 米菓

⓭ AC-DC電源

⓮ 工事用ヘルメットへの
IoT応用事例

❶:長岡技術科学大学協力会HP
❷:長岡大学HP
❸:長岡市 な!ナガオカ
❹:長岡工業高等専門学校HP
❺:日本私立学校振興・共済事業団HP
❻:新潟産業大学HP
❼:長岡市HP
❽:長岡市総合計画
❾:長岡市HP
❿:日本精機株式会社HP
⓫:日刊工業新聞電子版
⓬:農林水産省HP
⓭:TDKラムダ株式会社HP
⓮:アルプス電気株式会社HP

# 地域の魅力（歴史・文化）

参考資料

❶ 山本五十六記念館（長岡市）

❷ 河合継之助記念館（長岡市）

❸ 良寛記念館（三島郡出雲崎町）

❹ 雲洞庵（直江兼続）（南魚沼市）

❺ 馬高縄文館（火焔土器）（長岡市）

❻ 奥只見シルバーライン（土木遺産）（魚沼市）

❼ 中山隧道（土木遺産）（長岡市～魚沼市間）

❽ 寺泊の町並み（北前船）（長岡市）

❾ 山古志の牛の角突き（国指定重要無形民俗文化財）（長岡市）

❿ 山古志の棚田（長岡市）

⓫ 魚沼神社太太神楽（小千谷市）

⓬ 割烹東忠本館（小千谷市）

⓭ 綾子舞（国指定重要無形民俗文化財）（柏崎市）

⓮ 金砂山円光寺閻魔堂（柏崎市）

❶：新潟中越ぐるっとさんぽ
❷：新潟中越ぐるっとさんぽ
❸：新潟中越ぐるっとさんぽ
❹：新潟中越ぐるっとさんぽ
❺：新潟中越ぐるっとさんぽ
❻：土木学会HP
❼：土木学会HP
❽：北前船日本遺産推進協議会HP
❾：長岡市やまこし観光ガイド＆マップ
❿：長岡市やまこし観光ガイド＆マップ
⓫：小千谷市HP
⓬：小千谷市HP
⓭：柏崎観光協会HP
⓮：柏崎観光協会HP

# 地域の魅力（基幹病院）

参考資料

❶ 長岡中央総合病院

❷ 長岡赤十字病院

❸ 長岡西病院

❹ 立川綜合病院

❺ 小千谷総合病院

❻新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

❼ 柏崎総合医療センター

❶：TENYテレビ新潟-医療の広場HP
❷：長岡赤十字専門学校HP
❸：キャリタス看護HP
❹：医療法人立川メディカルセンターHP
❺：小千谷市HP
❻：新潟県HP
❼：柏崎市HP

**❷、❻は三次救急医療機関**

# 会津の魅力

参考資料

・鶴ヶ城や日進館など歴史的観光地で、中越地域の小学校の修学旅行先にもなり、昔から親しみのある地域
・日本酒金賞受賞数6年連続トップの魅力的な日本酒が数多く存在する
・日本初のコンピューター専門大学である会津大学と産学官の連携が強く、ICT技術を生活に積極的に取り入れる歴史と先進技術が融合する地域。現在ICTオフィスビル建設を整備中

❶ 猪苗代湖

❷ 野口英世記念館

❸ スマートシティAiCT完成予想図

❻ 猫魔スキー場

❼ 会津若松市の地域情報ポータルサイト「会津若松＋」

❹ 会津大学

❺ 会津地域の日本酒

❼ 鶴ヶ城天守閣

❶：猪苗代湖観光協会HP
❷：野口英世記念館HP
❸：会津地域スマートシティ推進協議会HP
❹：会津大学HP
❺：会津若松酒造協同組合HP
❻：星野リゾート猫魔スキー場HP
❼：会津若松観光ナビHP

# 歴史的つながり（戊辰戦争）

参考資料

・戊辰戦争は今年150年の節目を迎えるが、長岡、柏崎、小千谷、魚沼、そして圏域を超えた会津地域はその激しい戦場となり、奥羽越列藩同盟として歴史的縁がある。
・歴史的につながりのある長岡・柏崎・小千谷・魚沼・会津がこの節目の年に力を合わせ、圏域を超えたつながりを持つことで、新たな魅力を打ち出す事ができる
・明日、８月８日には、会津ジュニア大使が長岡市を訪問する予定。長岡市立南中学校との交流会が開催される

図　八十里越の変遷
資料：長岡国道事務所 「八十里越を翔る」パンフ

▲明治元年越後大合戦略図（長岡市立中央図書館所蔵）
激しい戦闘は、慶応４年（1868）閏４月から同年８月初めの頃まで続いた。長岡城をめぐる攻防戦は、周辺地域を広く巻き込んだ。山野河海を問わず旧幕府軍と新政府軍は激闘を繰り広げた。

「八十里超」は、南会津から越後に通じる重要な街道であり、戦国時代から明治末期まで中越地域と南会津地域は強い依存関係で結ばれていたが、大正３年に磐越西線が全通し、八十里超えは衰退した（長岡国道パンフより）

# 広域観光周遊ルート

参考資料

○観光庁：訪日外国人旅行者の地方への誘客を図るため、複数の広域周遊ルート形成計画を認定して、地域が推進する取組をパッケージで支援し、海外に協力に発信

○広域周遊ルートの一例：昇龍道

中部・北陸９県のエリアを「昇龍道」と命名し、連携して海外での知名度向上を図るとともに、主に中華圏及び東南アジアから観光客を呼び込むことを目標としている。

## 広域観光周遊ルート形成促進事業

①「アジアの宝悠久の自然美への道ひがし北・海・道」
（「プライムロードひがし北・海・道」推進協議会）
②「日本の奥の院・東北探訪ルート」
（東北観光推進機構）
③「昇龍道」
（中央日本総合観光機構）
④「美の伝説」
（関西広域連合、関西経済連合会、関西観光本部）
⑤「せとうち・海の道」
（せとうち観光推進機構）
⑥「スピリチュアルな島～四国遍路～」
（四国ツーリズム創造機構）
⑦「温泉アイランド九州広域観光周遊ルート」
（九州観光推進機構）
⑧「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」
（きた北海道
広域観光周遊ルート推進協議会）
⑨「広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」」
（関東観光広域連携事業推進協議会）
⑩「縁の道～山陰～」
（山陰インバウンド機構）
⑪「Be. Okinawa 琉球列島周遊ルート」
（Be. Okinawa
琉球列島周遊ルート形成推進協議会）

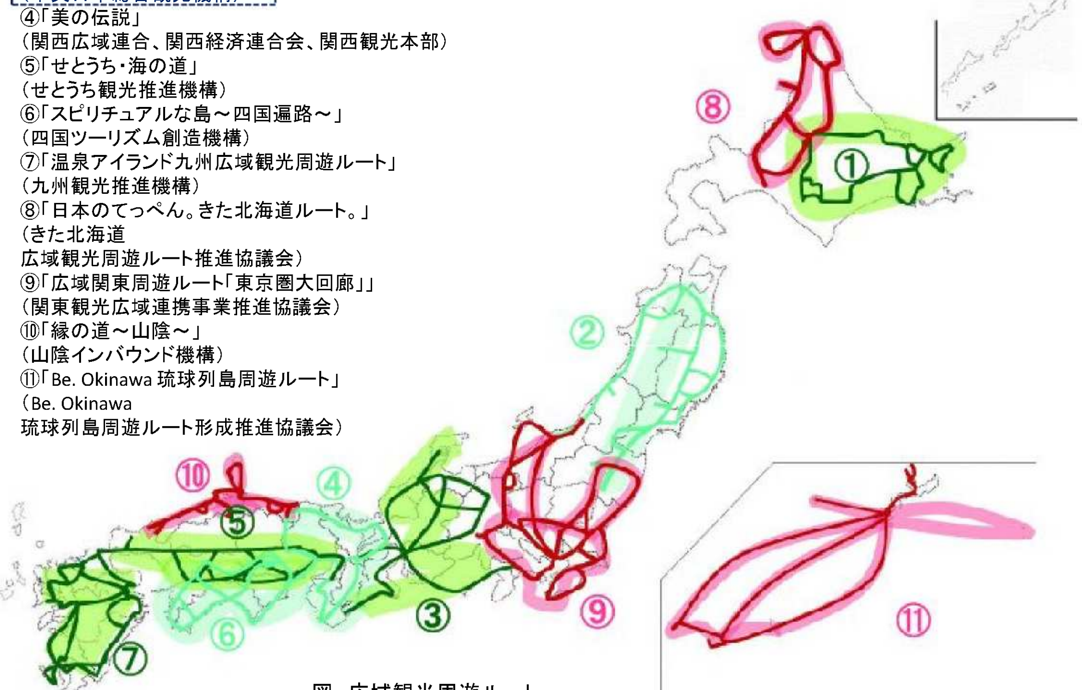



図　広域観光周遊ルート
資料：観光庁HP「広域観光周遊ルート形成促進事業」（2017年11月）

図　昇龍道のポスター
資料：中部北陸の旅「昇龍道」プロジェクトHP

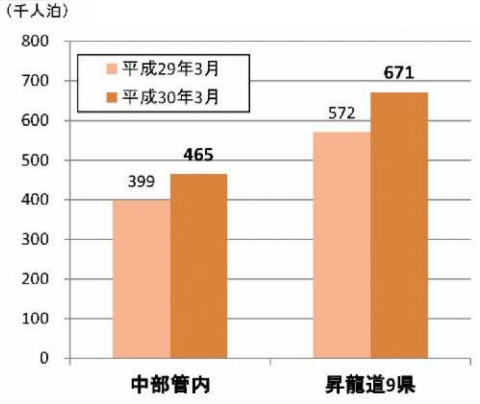



図　外国人延べ宿泊者数
（管内・昇龍道）
資料：中部運輸局観光部
「宿泊旅行統計」平成30年3月分

# 関連計画

参考資料

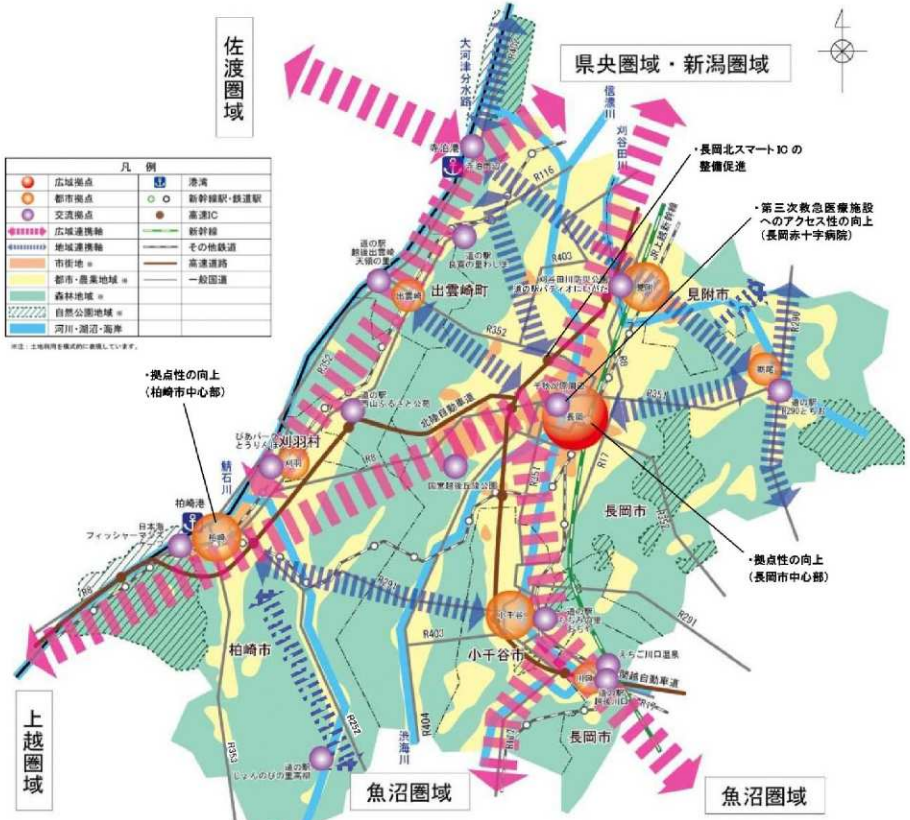
・現在、長岡都市圏において、信濃川渡河部の渋滞解消、圏域内の連携強化を目的として、ラダー型幹線道路ネットワークの計画を策定し、段階的に整備を行っている

・「中越圏域広域都市計画マスタープラン（H29年3月）」においては、各都市拠点や交流拠点など、相互の連携の強化を図り、他圏域や県外との多様な交流の促進と産業の振興を目指すことが謳われている

⇒今後は、圏域を越えた連携を強化し、地域の魅力を一層活用することが必要

①～⑤の区間整備中
目標年次平成36年度

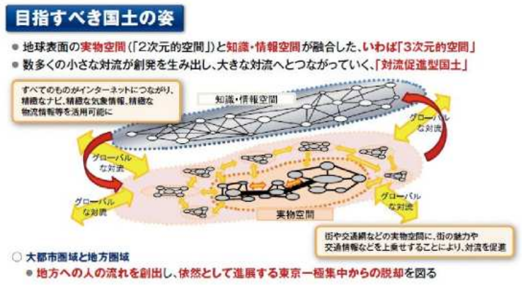
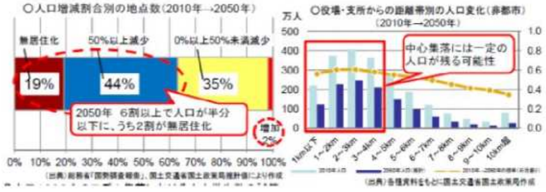
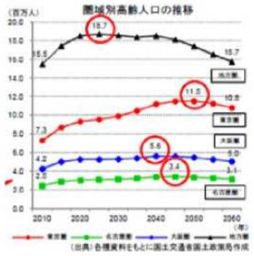
長岡都市圏交通円滑化総合計画（平成27年3月）
長岡市　見附市　小千谷市　出雲崎町




中越圏域広域都市計画マスタープラン（H29年3月）

# 関連計画

参考資料

| 計画名 | 東北圏広域地方計画 | 国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～ | 国土形成計画（全国計画） |
|---|---|---|---|
| 策定主体 | 国土交通省 | 国土交通省 | 国土交通省 |
| 策定年月 | 平成28年3月 | 平成26年7月 | 平成27年8月 |
| 計画の<br>位置づけ<br>性格 | 「国土形成計画（ 全国計画）の基本的方針に基づき、東北圏の地域特性を踏まえながら特色のある地域戦略を描くため、経済団体、地方公共団体、国の地方支分部局が協議を行った上で策定した計画。 | 急速に進む人口減少や巨大災害の切迫等、国土形成計画（平成20（2008）年閣議決定）策定後の国土を巡る大きな状況の変化や危機感を共有しつつ、2050年を見据えた、国土づくりの理念や考え方を示すもの。 | 「国土のグランドデザイン2050」等を踏まえて、急激な人口減少、巨大災害の切迫等、国土に係る状況の大きな変化に対応した、平成27年から概ね10年間の国土づくりの方向性を定めるもの。<br>国土に関わる幅広い分野の政策について、長期を見通して、統一性を持った方向付けを行い、目指すべき国づくりを推進する。 |
| 目標年次と<br>目指す目標 | ［目標年次］　2025年（計画期間：2015年から2025年）<br>［将来像］<br>• 日本海・太平洋2面活用による国際競争力の強化<br>• 新産業の創出と農林水産業の高付加価値化による雇用の確保<br>• 東北圏の資源を活かした広域観光の推進による交流人口拡大<br> | ［目標年次］　2050年<br>［目標］<br> | ［目標年次］　2025年（2015年～2025年）<br>［目標］<br>①安全で、豊かさを実感することのできる国<br>②経済成長を続ける活力ある国<br>③国際社会の中で存在感を発揮する国 |
| 定住人口<br>交流人口<br>出生率等 | 【課題】<br>• 我が国の総人口は2008 年の約1億2,800 万人32をピークに減少局面に入ったが、東北圏では既に1996 年の約1,233 万人32をピークに減少に転じており、2010 年から2050年の将来予測においては、圏域別の人口減少率は36%と全国で最も高く、圏域内では各県すべてにおいて人口減少が加速していくものと見込まれている。<br>• 生産年齢人口が減少する一方で、高齢化の進行も著しく、総人口に対する65 歳以上の高齢者人口の割合をみると、2010 年には全国の約23%に対し、東北圏では約26%と上回っており、将来予測によれば、2020 年には約33%になると見込まれている。<br><br>【対策】<br>• 人口減少下における東北圏において、中長期的に人口減少を安定させ、持続可能な地方創生を成し遂げるため、多世代循環型地域の構築、医療・介護・福祉等の高齢社会へ向けた取組、子育て支援等の女性が活躍できる環境づくり、若者定着に向けた取組等により、地元への定住、若者の流出防止、東北圏へ人の流れを呼び込む社会環境を創出する。 | 【課題】<br>急激な人口減少、少子化<br>• 1kmメッシュで見ると2050年には、現在の居住地域の6割以上の地点で人口が半分以下に減少し、うち2割が無居住化。<br>• ただし、旧役場、小学校等がある中心集落では一定の人口が維持される可能性がある。<br><br>異次元の高齢化の進展<br>• 世界のどの国も経験したことのない4割の高齢化率へ。<br>• 地方圏の高齢者数は2025年にピークアウトするのに対して、東京圏では2050年に向けて急増。 | 【課題】<br>• 我が国の総人口は2008年の約1億2,800万人を頂点として減少を始め、国立社会保障・人口問題研究所の中位推計によると、2025年には約1億2,100万人、2050年には約9,700万人になると見込まれており、本格的な人口減少社会を迎えた。2005年に1.26まで低下していた合計特殊出生率はその後上昇に転じ、2014年には1.42となっているものの、人口置換水準といわれる2.07にはまだ開きがあり、今後、出生率が回復したとしても、数十年間は総人口の減少が避けられない。<br>• 総人口に占める高齢者の割合は、2013年には25%を超えており、我が国は世界に例のない超高齢社会に到達している。とりわけ、出生率の低下に伴う少子化と団塊の世代が高齢者となったことにより、若年人口、生産年齢人口の減少と高齢人口の増加が進み、近年、高齢化が特に急速に進展している。<br><br>【人口の見通し】<br>• まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（2014年12月27日閣議決定）では、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指すべき将来の方向とし、そのためには、人口減少に歯止めをかけなければならず、出生率が人口置換水準に回復することが必須の条件としている。<br>• 若い世代の結婚・子育ての希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上し、さらに、政策の効果により人口置換水準（2.07）が達成されるケースを想定して、2060年に1億人程度の人口が確保されるとしている。 |

# 関連計画

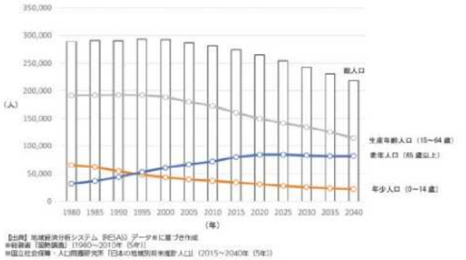
参考資料

| 計画名 | 長岡リジュベネーション　～長岡若返り戦略～ | 中越圏域 広域都市計画マスタープラン | にいがた未来想像プラン |
|---|---|---|---|
| 策定主体 | 長岡市 | 新潟県 | 新潟県 |
| 策定年月 | 平成27年10月 | 平成29年3月 | 平成30年1月 |
| 計画の<br>位置づけ<br>性格 | まち・ひと・しごと創生法第10 条の規定に基づき策定された総合戦略 | 上位計画である「21世紀新潟県都市政策ビジョン」の理念・方向性に即して策定され、県が実施するまちづくりや都市計画の基本的な方針を定めるとともに、市町村が策定する都市計画マスタープラン(法第18 条の2)の上位計画としても位置付けられる。 | • 将来の目指すべき新潟県の姿を明らかにし、今後の県政運営の総合的・基本的な指針として、県政の各分野のあらゆる計画やビジョンの基本となる、県の最上位の行政計画となるもの。<br>• 具体的な施策・事業等の立案・実施に向けて、毎年度の予算編成の基本となるもの。<br>• まち・ひと・しごと創生法第9条に基づく、本県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」としても位置付ける。 |
| 目標年次と<br>目指す目標 | ［目標年次］　平成31年度（平成27年度～平成31年度）<br>［理念］　志を未来に活かす、ながおか<br><br>・戦略1　～若者定着<br>・戦略2　～子育て<br>・戦略3　～教育<br>・戦略4　～働く<br>・戦略5　～交流<br>・戦略6　～安全安心<br>・戦略7　～連携 | ［目標年次］　平成42年（平成22年を基準年とし概ね20年後）<br>［基本理念］　新潟県の都市計画は、「人口減少」「高齢化」「環境保全」「防災」を重要課題と捉え、今後の都市づくりの共通目標像を持続可能な「コンパクトな都市」づくりとする。<br><br>［目標］　「災害の教訓と豊かな資源を活かした交流圏域」<br>高次都市機能の充実による中越都市圏の形成<br>1　恵まれた広域交通ネットワークを活かした交流の促進<br>2　地域資源の保全と活用<br>3　被災経験を活かした安全・安心に暮らせる都市<br>4 | ［目標年次］　平成36年度（平成29年度～平成36年度）<br>［基本理念］　命と暮らしが守られ、一人一人が未来への希望を持って自らの幸福を実現できる新潟県を創る<br>～現在と未来への責任を果たす県づくり～<br>［将来像］　Ⅰ　安全で暮らしやすい新潟<br>Ⅱ　持続的に発展し賑わいのある豊かな新潟<br>Ⅲ　学びやすく、成長・活躍できる新潟 |

## 定住人口<br>交流人口<br>出生率等

### 長岡リジュベネーション　～長岡若返り戦略～

【定住人口の現状】
- 年少人口は、減少傾向が続き、1990年代後半からは、老年人口を下回り続けている。
- 生産年齢人口は、上記の年少人口の減少傾向を受け、2000年代に減少に転じて以降、現在まで減少傾向が続く。
- 一方、老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均余命が延びていることから、一貫して増加を続けている。




【将来展望】
- 合計特殊出生率については、長岡市の過去20年間の平均値が、全国の平均値を「0.12」上回る水準であることから、将来的にも当該水準を維持することを目指す。具体的には、平成25年度における長岡市の実績値である「1.50」から段階的に上昇し、2040年（平成52年）に、国が長期的な見通して示している「2.07」に前述の「0.12」を加えた、「2.19」に到達するものと展望する。
- 社会移動については、主に若者世代における純移動率が段階的に縮小し、2035年（平成47年）に均衡に至り、以降は社会増に転じていくことを展望する。
- 以上の考え方に基づく人口の将来推計は、2040年（平成52年）に23万5千人程度を確保し、その後は維持することを展望する。

### 中越圏域 広域都市計画マスタープラン

【定住人口の現状】
- 本圏域の人口は約46 万人で県人口の約2割近くを占める。このうち人口規模が大きい長岡市及び柏崎市の人口が、約8割を占める。

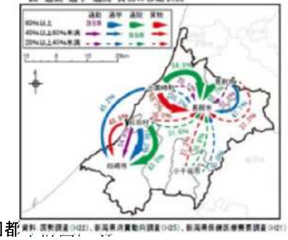
表　市町村別人口規模・人口増加率・高齢化率

| | 人口(千人) | 割合(%) | 人口増加率(%) | 高齢化率(%) |
|---|---|---|---|---|
| 長岡市 | 283 | 60.9 | 96.5 | 25.5 |
| 柏崎市 | 91 | 19.7 | 93.4 | 27.2 |
| 小千谷市 | 39 | 8.3 | 92.7 | 28.3 |
| 見附市 | 42 | 9.0 | 96.2 | 26.1 |
| 出雲崎町 | 5 | 1.1 | 84.4 | 37.1 |
| 刈羽村 | 5 | 1.0 | 95.5 | 26.5 |
| 中越圏域 | 464 | 100.0 | 95.4 | 26.2 |
| 新潟県 | 2,374 | - | 95.9 | 26.3 |

※人口増加率はH12=100%　資料:H22 国勢調査

【交流人口の現状】

図　通勤・通学・通院・買物の移動状況



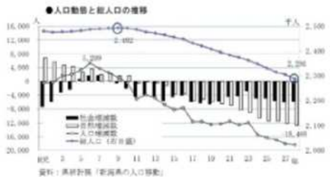
【人口想定】長岡都

| 区分　年次 | | 平成22年 | 平成32年 |
|---|---|---|---|
| 都市計画区域内人口 | | 267千人 | おおむね 256千人 |
| | 市街化区域内人口 | 202千人 | おおむね 206千人 |
| | 市街化調整区域内人口 | 65千人 | おおむね 50千人 |

・平成32年の市街化区域内人口には保留人口を含む。平成32年の人口は、平成22年の国勢調査結果を踏まえた国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に、関係市の政策的要素を加味している。）

### にいがた未来想像プラン

【定住人口の現状】




【達成目標】

【達成目標】
人口動態の改善数 5,900 人程度（平成 36 年度）
（人口動態の増減数の現状（平成 28 年）
△18,408 人―┬ 自然動態：△12,615 人
　　　　　　 └ 社会動態：△ 5,793 人（うち県外△5,906 人））

内訳
- 社会動態

| 項　目 | 現　状 | 改善数 |
|---|---|---|
| ・ 高等教育機関への進学による県外への流出 | 16%(3,200 人)の流出超過（平成 28 年度） | 1,700 人程度 |
| ・ 県内大学生等の県内就職 | 57.7%（2,899 人）（平成 28 年度） | 800 人程度 ※1 |
| ・ 県外大学等の本県出身学生のUターン就職 | 31.5%（協定大学のみ）（平成 29.3 卒業者） | |
| ・ 県外からのU・I ターン（学生を除く） | 「25～49 歳」「0～14 歳」の転出超過 1,055 人※2 | 1,200 人程度 |
| 計 | | 3,700 人程度 |

※1　県外大学等の本県出身学生のUターン就職者数は把握できないため、「U・I ターン就職促進に関する協定」を締結した大学の実績に基づく推計を含む。
※2　25～49 歳の社会人等のU・I ターン就職及びその家族の転入を想定
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（日本人）」（平成 28 年）

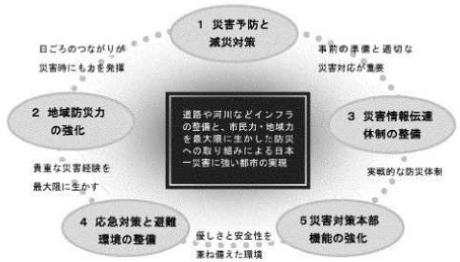
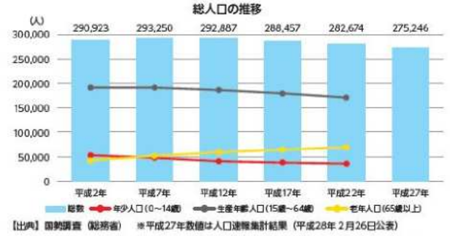
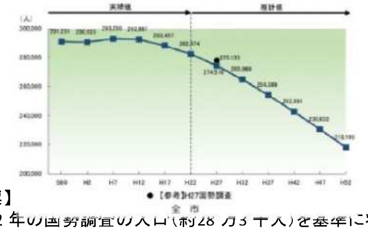
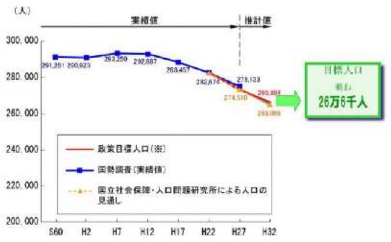
- 自然動態

| 項　目 | 現　状 | 改善数 |
|---|---|---|
| ・ 出産・出生（合計特殊出生率） | 1.43（平成 28 年） | 2,200 人程度※（希望出生率 1.80） |

※改善数は、社会動態の改善による女性人口の増加分も加味して推計したもの。（各年の死亡数の変動については考慮していない。）

# 関連計画

参考資料

| 計画名 | 長岡市総合計画 | 長岡市都市計画マスタープラン | 長岡市地域防災計画 |
|---|---|---|---|
| 策定主体 | 長岡市 | 長岡市 | 長岡市防災会議 |
| 策定年月 | 平成28年3月 | 平成22年11月策定、平成29年3月改定 | 昭和41年1月作成、平成26年2月修正 |
| 計画の位置づけ性格 | 長期的・総合的な展望に立った市政運営の基本構想であり、市のあらゆる計画の最上位に位置づけられる。 | 都市計画法第18 条の2に定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、概ね20 年後の都市の姿を見据えつつ、実現可能な10 年間の都市づくりの方針を総合的・体系的に示すもの。 | 災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条の規定に基づき長岡市防災会議が策定した計画。<br>風水害、雪害、震災、津波および原子力災害等の対策に関し、総合的かつ基本的な性格を有するもの。 |
| 目標年次と目指す目標 | ［目標年次］ 平成37年度（平成28年度～平成37年度）<br>［将来像］ 前より前へ！志を未来に活かし輝き続けるまち<br><br>将来像実現のための6つの政策<br>政策1 協働によるまちづくり：市民力と地域力を活かして、新たな価値や活力を生み出すまちづくりを目指します。<br>政策2 人材育成：子育て支援や教育の充実、市民主体の文化・スポーツ活動への支援などにより、長岡への愛着と誇りを持った人材の育成を目指します。<br>政策3 さらなる産業の活性化：地元企業・地場産業への応援と、新たな雇用と産業の創出により、若々しく成長力のあるまちづくりを目指します。<br>政策4 暮らしの安心と活力：市民の誰もが、健やかで元気に、安全で安心に暮らせて、活力が持てる地域社会づくりを目指します。<br>政策5 都市環境の充実：豊かな自然とまちの魅力が共生し、暮らしやすく、快適で環境にやさしいまちづくりを目指します。<br>政策6 魅力創造・発信：地域資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、国内外に向けた魅力の発信や交流の促進により、「長岡ファン」の拡大を目指します。 | ［目標年次］ 平成31年度（平成22年度～平成31年度）<br>［理念］ コンパクトに 絆でつなぐ まちとまち 長岡<br><br>将来都市像の実現に向けた 都市づくりの“3つのポイント”<br>point1 都市の活力を生み出し、地域生活を支える「都心地区」及び「地域拠点」を形成し、相互を円滑で便利な幹線道路及び公共交通網で結ぶ<br>point2 市街地を適正な規模にとどめ、既成市街地を有効に活用し、人口密度を維持する。<br>point3 環境への負荷を軽減するとともに、市民が安全に安心して暮らせる生活空間を創る | ［目標年次］ ー<br>［理念］ 日本一災害に強い都市（まち）づくり<br><br>長岡市防災体制強化の指針 5つの柱<br> |
| 定住人口交流人口出生率等 | 【定住人口の現状】<br>• 平成7年の約29.3万人をピークに、約27.5万人（平成27年）に減少。<br>• 年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は、減少傾向。<br>• 老年人口（65歳以上）は増加傾向。<br><br>【将来展望】<br>• 2040年（平成52年）に23万5千人程度を確保し、その後は維持することを展望。<br> | 【定住人口の現状】<br>• 平成22 年から平成32 年までに、本市の人口は約1万8千人減少する見通し。<br>• 平成32 年には、概ね3人に1人が高齢者となる見通し。<br><br>【将来目標】<br>• 平成22 年の国勢調査の人口（約28 万3 千人）を基準に将来推計を行うと、本市の人口は、平成32 年に約26 万5 千人まで減少する見通し。<br>• 人口減少が進展すると、まちの活力に大きな影響を及ぼすことが懸念されるため、本市では、人口減少を可能な限り緩和する政策に積極的に取り組んでいる。<br> | ー |